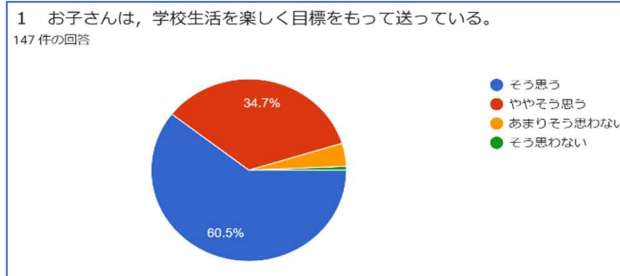
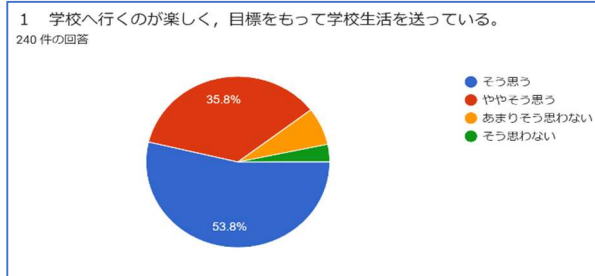


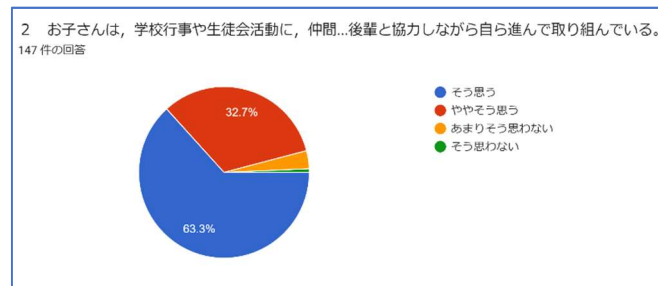
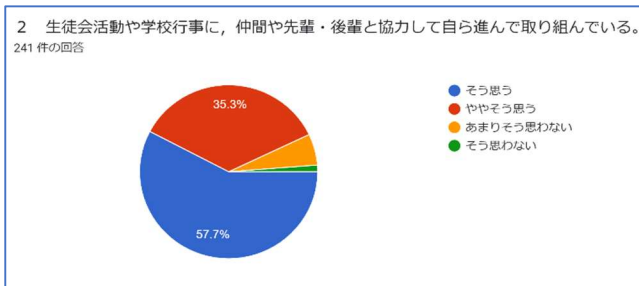
令和5年度 学校及び家庭における生活振り返り調査結果

※青色と赤色は肯定的意見

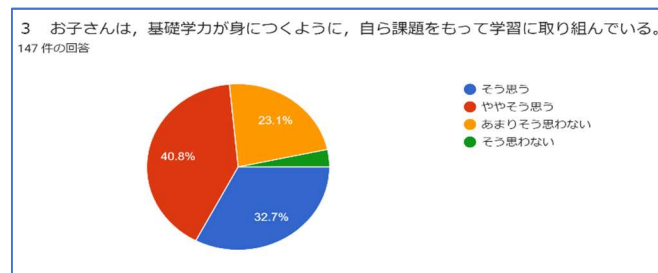
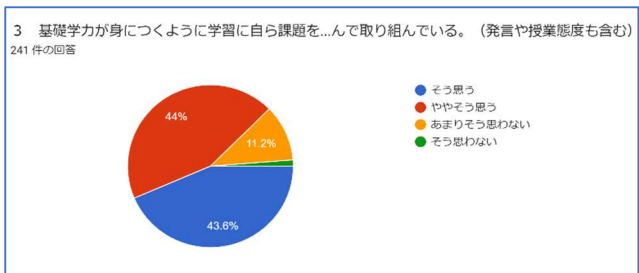
1 学校が楽しく、目標を持って学校生活を送っているか



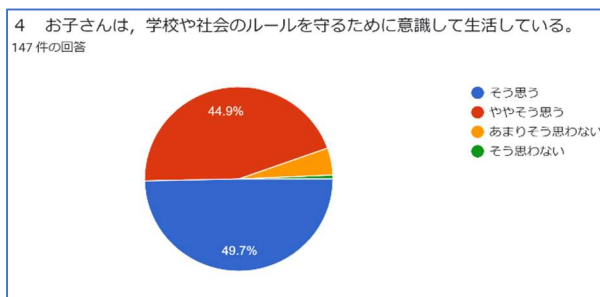
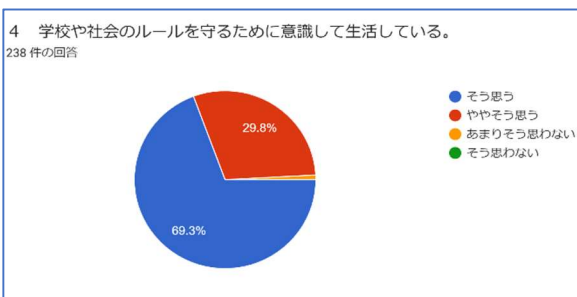
2 仲間と協力しながら自ら進んで取り組んでいるか



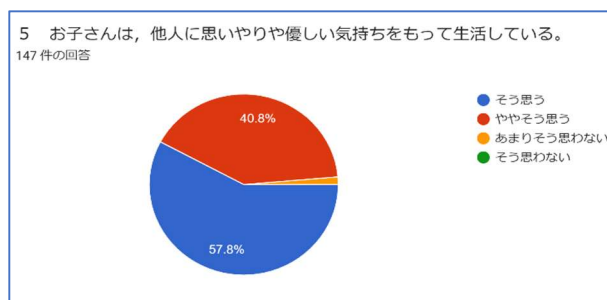
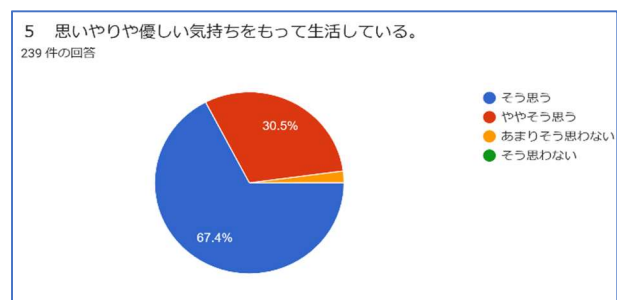
3 自ら課題を持って学習に取り組んでいるか



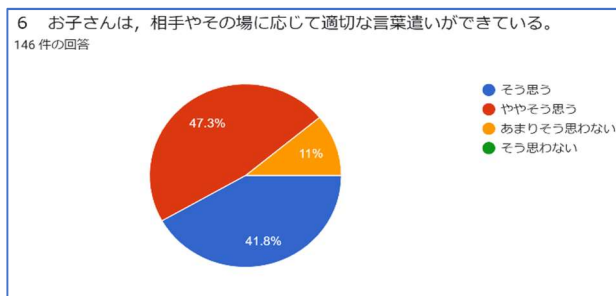
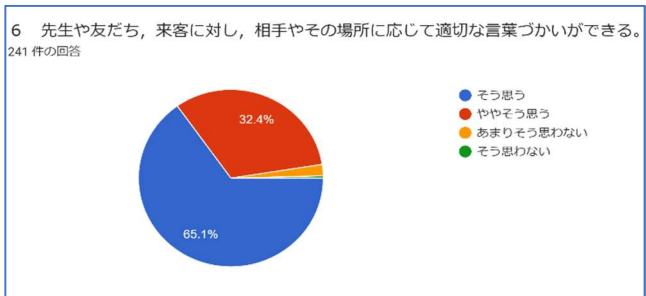
4 学校や社会のルールを守って生活しているか



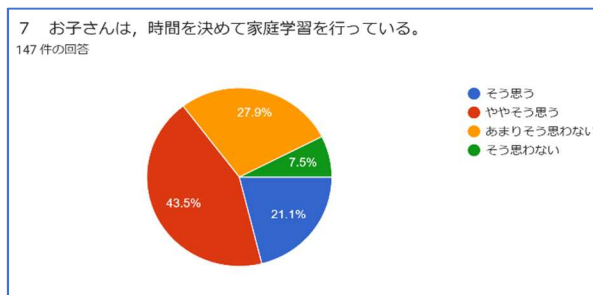
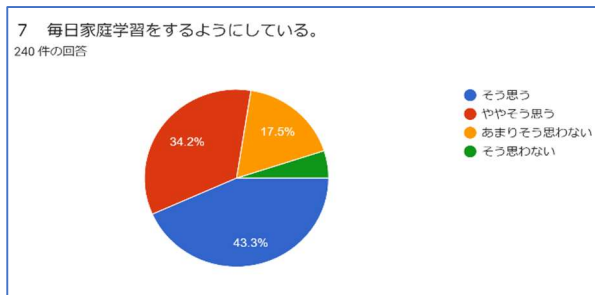
5 思いやりや優しい気持ちを持って生活しているか



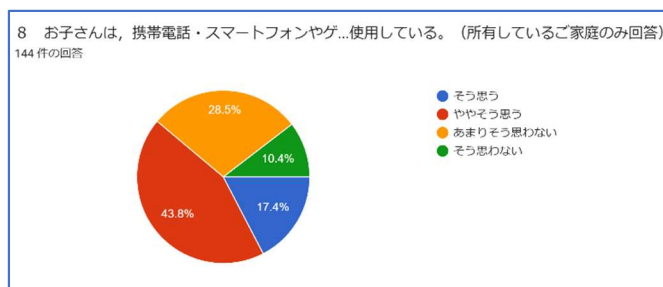
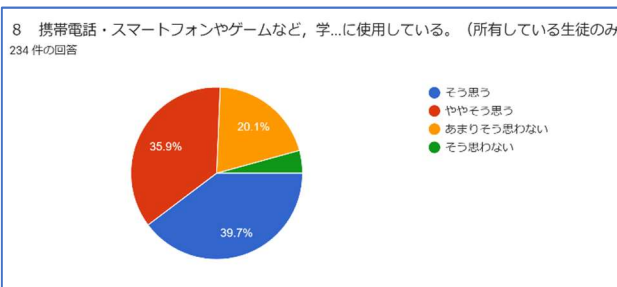
6 相手やその場に応じて適切な言葉遣いができるか



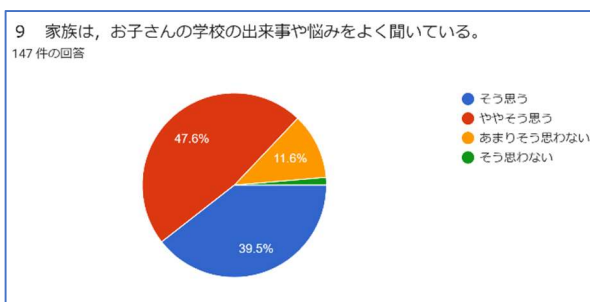
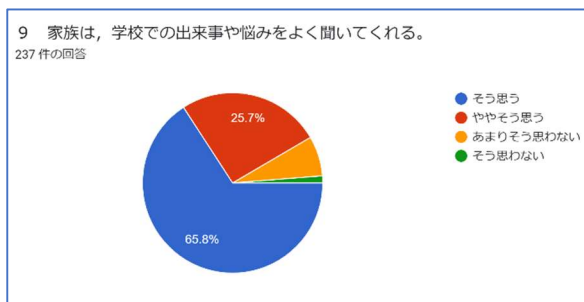
7 毎日、家庭学習をしているか



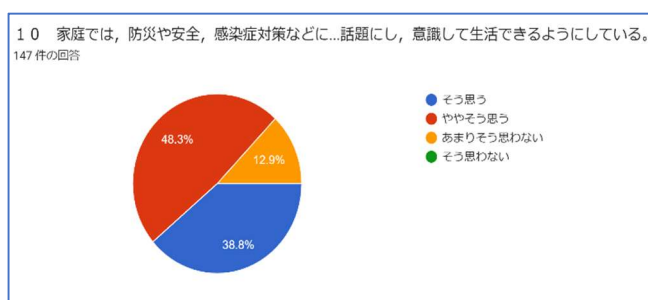
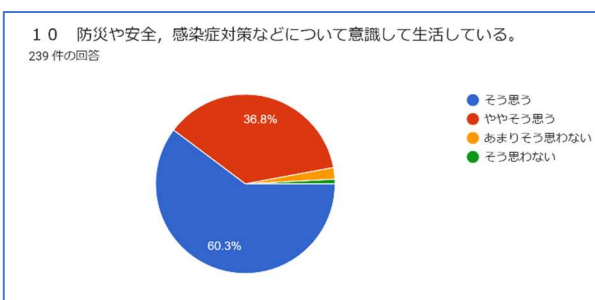
8 携帯電話やスマホ等を適切に使用しているか【時間】



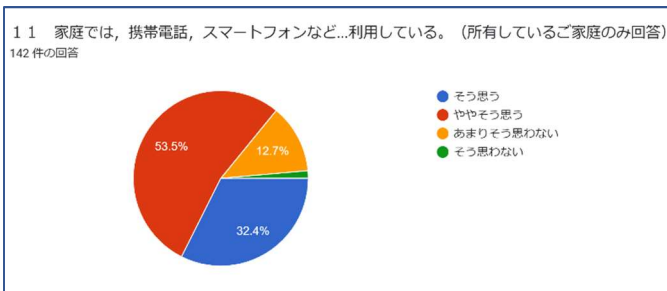
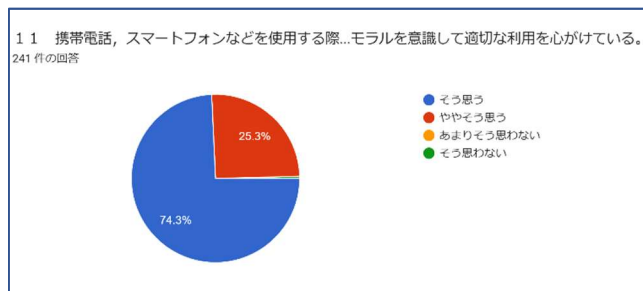
9 家族は、学校での悩みを聞いてくれるか



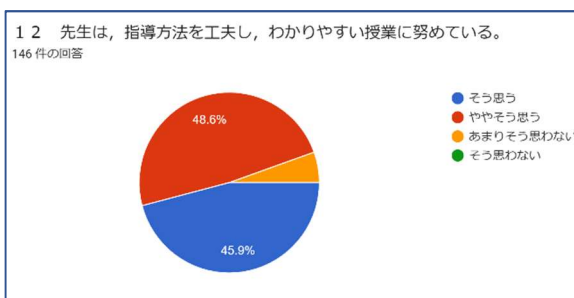
10 防災や安全、感染症対策などについて、意識して生活しているか



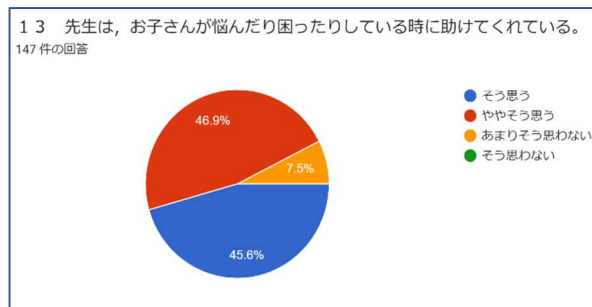
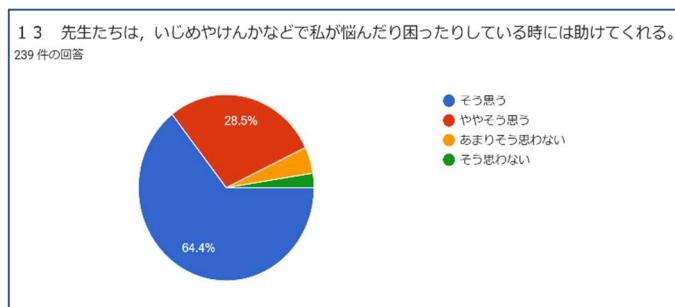
1 1 携帯電話やスマホを使用する際、情報モラルを意識して適切な利用をしているか【使用方法】



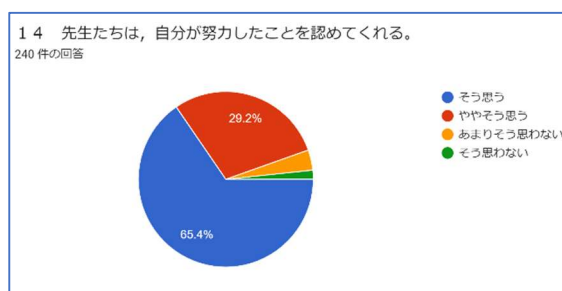
1 2 先生たちは，わかりやすい授業をしているか



1 3 先生たちは，いじめやけんか等で悩んでいたたり困っていたりするときに助けてくれるか



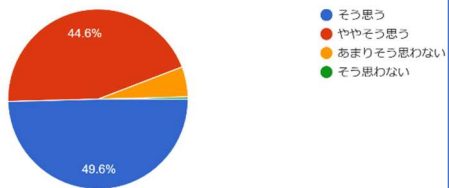
1 4 先生たちは，自分がしたことを認めてくれるか



生徒のみ：基本的な学習態度について

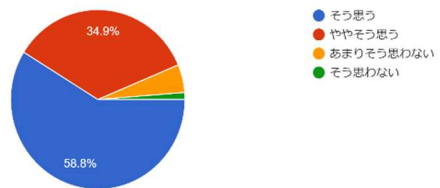
1 5 毎時間の授業の目標やねらいをよく理解して授業を受けている。

240 件の回答



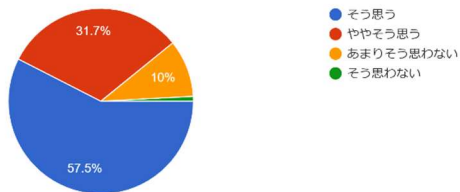
1 6 授業の中で自分の言葉で考えを伝えたり、友だち同士で聞きあったりしている。

238 件の回答



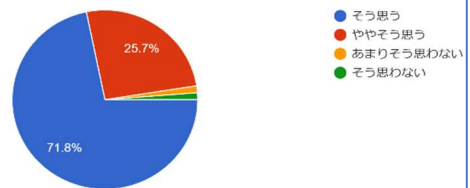
1 7 課題や提出物など、期日を守って提出している。

240 件の回答



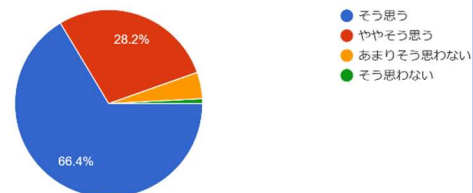
1 8 清掃の時間はしっかりと活動している。

241 件の回答



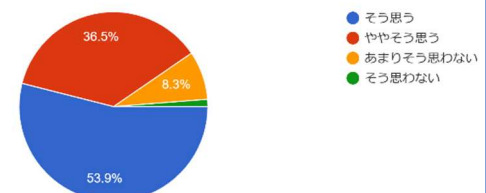
1 9 自ら進んで相手に伝わるようにあいさつをしている。

241 件の回答



2 0 学校からのたよりや通知を家の人にきちんと見せている。

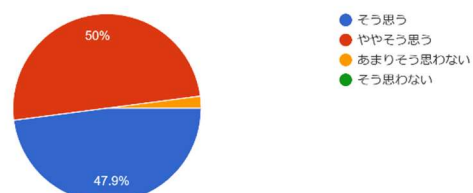
241 件の回答



保護者のみ：一般

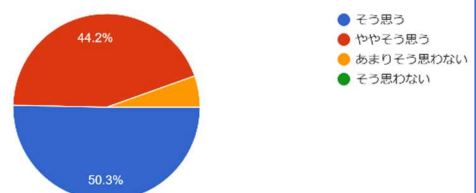
1 4 学校は、防災教育や情報モラル教育など安全についての教育に取り組んでいる。

146 件の回答



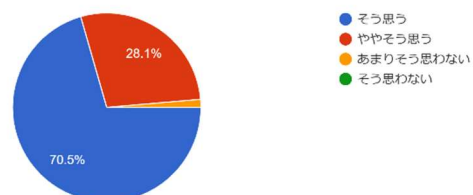
1 5 学校は、相談しやすく保護者の声や願いに応じてくれる。

147 件の回答



1 6 学校は、各種たよりの発行や安心メールなど家庭への連絡や情報提供を行っている。

146 件の回答



R5 学校評価・教職員自己評価結果と考察・来年度へ向けて 回答者数31名

1 評価の方法

「A-そう思う」を4点、「B-ややそう思う」を3点、「C-あまりそう思わない」を2点、「D-そう思わない」を1点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。
なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いた。

2 総括

- ・5段階評価で平均点が4点以上の場合、基本的には良好な評価を得られたと判断すると、本年度はおおむね良好であったと考える。
- ・教職員の共通理解のもと、外部との連携を図りながら、学校教育目標の実現を目指すとともに、バイアスに留意しつつ適切な評価を根拠としてブラッシュアップに努めていく。

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	評価	考察と来年度に向けて
1 学校 教育 目 標 に 関 する こ と	① 教育 目 標	1 学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	23	8	0	0	0	31	4.8	【考察】 ・今年度も肯定的な評価が多かった。知・徳・体は普遍的な教育目標であり、ベースとなる本校独自の目標である「やりぬく生徒」は、現代心理学でこれからの社会で必要な非認知能力として注目されつつあるGRIT理論（困難なことに立ち向かう能力・失敗しても諦めずに続ける力・自分で目標を見つける力・最後までやり遂げる力）と一致しており、大切に継承していきたい。 ・社会の変化（特に価値観、ネット、ジェンダーフリー等）がめまぐるしく、常に変化に即応したいと意識している。
	2 職員の共通理解のもと、学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	19	11	1	0	0	31	4.5	【来年度に向けて】 学校教育目標及び目指す生徒像を念頭に置き、共通理解のもと取り組んでいきたい。思いやりある生徒の育成のために工夫したい。	
2 学校 経営 に 関 する こ と	② 教育 課程 管理	3 各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	10	17	2	0	2	31	4.1	【考察】 ・行事等の計画は適切に作成されていると思うが、授業時数に影響が出ていることが否めない。様々な働き方改革と並行してさらなる行事の精選が必要である。 ・感染症による学級閉鎖により、授業時数確保が厳しくなり、学級によって偏りが生じてしまった。 ・今年度は道徳も学年や全校で統一された時間割だったので、とてもやりやすかった。
		4 道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	16	13	0	0	2	31	4.5	【来年度に向けて】 ・今後も働き方改革と並行して行事の精選は考えていくが、その目的や在り方（準備の進め方も含めて）が限られた時間内で達成できるよう、共通認識を図りながら計画・実施していく。 ・教科等担当者が、各自で時数管理を行い、授業の内容を工夫しても調整がつかない時は、早めに教務主任等に相談をし、教科の指導内容が確実に生徒に定着するようにしていく。行事や祝日等が同じ曜日に重なってしまう場合は、曜日をそのまま入れ替えることも必要である。時数の確保を優先させる方向で調整する。
	③ 学校 運営 組織	5 学校運営にふさわしい校務分掌（組織や個人）がなされ、それぞれ適切に機能している。	13	13	4	0	1	31	4.1	【考察】 ・人員の不足もあり、個に集中しがちなところもあるように思う。協働体制の取り組み方を工夫する必要がある。 ・生徒は朝読書を含めよく本を読んでおり、多くの生徒が図書館に通っている。 ・職員一人一人がもっと積極的に研修を行なった方がいい。 ・若い教員が気を利かせ、よく働いていた。
		6 資質・能力の向上に努め、読書と個の特性を伸ばす自発的な研修の推進に努めている。	13	16	2	0	0	31	4.3	・生徒指導案件の報告窓口を一本化し、「報告・連絡・相談・確認」がより効率的になることを検討したい。職員会議の中に各クラスの様子を報告する時間を作たらどうだろうか。
		7 諸問題を組織で対応する協働体制の確立に努めている。	17	11	3	0	0	31	4.4	【来年度に向けて】 ・「運営委員会」「生徒指導部会」「不登校部会」など一部の職員で行われる会議で話し合わせ決定したことは、必ず学年で共有させたい。月曜日の放課後等の学年会議を位置づける。迅速に対応しなくてはならないことは、学年の朝の打ち合せの中などで、会議の出席者が伝達し、共通理解を図るようにする。 ・ベテランの職員から若手職員への指導力や事務処理能力の継承は喫緊の課題である。若手職員が遠慮無くベテランに指導を求められる体制を整えたい。
		8 迅速で適切な初動体制の確立と情報共有のために、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	12	12	6	0	1	31	4.0	・「報告・連絡・相談・確認」については、多忙の中、共通理解ができなかった事案があったという意見もあり、全教職員が同一歩調で生徒指導や行事等への取り組みができるよう改善していきたい。
	④ 安全 管理	9 防災計画を策定し、実践的な避難訓練の工夫により、日常の安全意識を育てる指導を実施している。	22	9	0	0	0	31	4.8	【考察】 ・施設や設備の安全管理については、築15年以上が経過しているため、修繕箇所も増えてきている。定期的に安全点検を実施し、修繕がすぐに可能なものは素早く対応するよう関係部署に働きかけた。 ・防災については、より実践的な訓練を実施したことで、教職員・生徒とも防災の意識が高まっている。 ・防災学習のような座学でもできるとよい。
		⑤ 保健 管理	10 健康診断・心身の健康相談の他、健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	21	10	0	0	0	31	4.6
11 食の安全と、適切なアレルギー対応に努めるとともに、健康・安全と食教育の推進に努めている。			27	4	0	0	0	31	4.9	【来年度に向けて】 ・コロナ感染症対策が5類に移行したが、西鐘祭や合唱祭の後、学級閉鎖が相次いだ。対策は取っていたが、世の中の風潮の変化とともに、感染拡大防止の難しさを感じている。バランスを取りながら高い危機管理意識を持続させて学校生活を維持していきたい。
⑥ 心 の 育 成		12 あいさつ、授業規律など基本的生活習慣の育成を通して、豊かな感性を育てている。	18	11	2	0	0	31	4.5	【考察】 ・「心の育成」については、昨年よりもポイントが上がっている。「あいさつ」に関しても、生徒会でも取り組み、地域からも引き続き高く評価されている。 ・規律、生活習慣ともよく整っているが、清掃活動に関しては、きちんと指導する必要があると感じている。 ・生徒会活動の中に縦割りでの活動が増えてきているのが良い。異学年交流（縦割り活動）は今年度盛り上がったと思う。生徒が自ら考えて行動する取組を生徒会本部が提案してくれて良かった。 ・委員会活動に自主性を持たせるために、「～週間」「～活動」などを設けてはどうか。 ・計画的な情報モラル教育は進められているが、SNSの使い方を含め、情報モラルは本校の喫緊の課題である。 ・情報モラルについては、何度も繰り返していく必要がある。
		13 自治的な生徒会活動と異学年交流を推進し、伝統を受け継ぎ創る意識の育成と継承を図っている。	20	9	1	0	1	31	4.6	【来年度に向けて】 ・生徒の自主性をすべての教育活動で育むことの大切さを、まず教職員間で確認し、生徒会活動を中心に生徒が自ら考え判断し実行できるよう、企画・運営をバックアップすることを心がけ、本校の伝統としてつなげていきたい。
		14 読書指導や計画的な情報モラル教育を通して豊かな心の教育の充実に努めている。	18	10	2	0	1	31	4.5	・委員会活動に関しては、生徒の自主性を高められるよう、今後も検討していきたい。 ・読書ができる機会をきちんと確保し、学習面や生徒指導面からも、読解力向上につなげたい。 ・SNSに関しては、保護者の記述からも「家庭で指導が及ばない」という困り感が伝わってくる。なぜSNSを長時間使用してはいけないのか、ゲーム依存症になるとどのような弊害があるのか、情報モラルを守らない場合はどうなるのか実例を挙げて自分事として捉えさせたい。また、学活や道徳、各教科に横断的に位置づけた「情報モラル教育」を実践し、全校体制で取り組んでいく。外部機関を招聘した集会や授業参観、PTA学習会等で保護者とともに学ぶ機会を設け、危機感を共有してもらうようにする。
⑦ 特別 支援 教育	15 教職員の共通理解のもとで特別支援教育及び交流学習の体制が整えられ、効果的な指導を行っている。	22	6	2	0	1	31	4.6	【考察】 ・特別支援教育については、沼崎市支援員の先生方に積極的に関わっていただき、一人一人の生徒の特性を理解した上で指導することが可能になっている。特に、3年生の数学を中心に、夏季休業中の「特別講座」を手厚く指導していただいた。日頃から一人の生徒に対して複数の職員が関わり、手厚い支援や指導を心がけてきた。 ・不登校対策として、「かがやき教室」やSC、医療機関等との連携が進み、配慮が必要な生徒の支援に協力していたっている。不登校の生徒に対して、第一に考えることは、本人の居場所がどこにあるかということである。不登校部会で確認し、全体への周知を図るとともに、個々のケースにあった対応を模索している。 ・不登校の生徒に対して、担任や人間関係のとれる職員が、週1を基本に家庭訪問や連絡をとりあって対応している。負担感は否めないが、できる限り複数で対応し心理的なバックアップ体制を取る中で、組織として持続可能なサポートを行っている。 ・共通理解する場が少ないので、職員会議等で時間を生み出せないだろうか。	

2	学校経営に関すること		⑦特別支援教育	16	かがやき教室等の関係諸機関との連携を強化し、組織的に生徒指導を行っている。	16	11	1	1	2	31	4.4	【来年度に向けて】 ・特別支援校内委員会を充実させ、一人一人の生徒の状況を把握し、学習面や生活面での指導をどのように進めていくのか具体的な対応策を検討する。 ・特別支援が必要な生徒に対して、進路選択などを念頭に置きながら、3年間を見通した個別的教育計画を立て、全職員が共通理解のもとサポートにあたれるようにする。 ・「特別な支援を要する生徒」は、普通学級にも存在するという認識のもと、個々の生徒の状況から具体的なサポートを生徒指導部会や不登校部会を中心として、全職員間で確認し合いながら進める。 ・教室で授業を受けることができず別室で学習している生徒をきちんと把握し、長い時間放置することがないように学年職員間で連携を図る。基本的に学年で対応するが、手が足りない場合は、学年や教科を超えて応援体制をとり、別室の生徒に関わるように工夫する。
			⑧研修	17	本校の教育課題や生徒の実態に応じた校内研究が企画され、協働して意欲的、積極的に取り組んでいる。	15	11	1	0	4	31	4.5	【考察】 ・校内研では、ベテランから若手まで活発な協議が行われ、全教職員が共通理解のもと、研究主題に沿った授業改善を行うことができた。 【来年度に向けて】 ・「研修」については、「学び続ける教師」を念頭に、職員自ら意欲的に研修の機会を設定し、参加できるよう体制を整備するとともに、教職員や生徒への還元を奨励していく。 ・今年度の校内研は、講師をお招きし研究以上に研修に力を入れた。気軽に全職員が授業を参観する機会を設け、授業の工夫・改善に取り組みたい。外部組織での研修はもちろんのこと、OJTを通して、若手やミドルリーダー等それぞれのキャリアステージに応じた研修を積み、教員の資質向上を目指していきたい。
3	学習指導に関すること		⑨学習指導	18	主体的・対話的で深い学びを通して、3つの資質能力の育成に努めている。	15	14	0	0	2	31	4.5	【考察】 ・校内研究などで学び、常に意識するように心がけている。 ・生徒会本部の取り組みも含め、自主学習ノートの質の向上を呼びかけ、良いものを掲示したり、取組をしたりしている。家庭学習のやり方を教えることも大切だと感じた。 ・教科担当が曜日ごとにチェックに入る等、学年内で工夫をして状況が改善した。 ・本来ならば習熟度別に課題設定すべきかと思いつつも、実現できていない状況です。 ・いろいろな場面でICTを利用するようになり、授業改善に努めている。また、ICTを各授業で効果的に活用する場面が増えている。
				19	基礎・基本の習得と定着を図るために、個別最適化を意識して授業の工夫改善に努めている。	17	11	1	0	2	31	4.5	・タブレットの使用場面や、生徒のリテラシーの低さなど、気になる場面もあった。“使い方”については、毎年度当初に職員・生徒で確認したい。 ・タブレットを休み時間の使用について指導したおかげで、授業中にもみ使用している生徒が増えたように思う。 ・「どの生徒にもわかる」は、なかなか難しいが努力している。
				20	家庭学習の定着と充実を図るため、自主学習ノートの質の向上とスタディ・ログの活用に努めている。	11	16	1	0	3	31	4.3	【来年度に向けて】 ・今年度は、協働的な学びの場面でのICTを活用する授業づくりを心がけた。「どの生徒にもわかる」授業を目指し、校内研等で支援しながら、教職員がICT活用を学ぶ機会をつくり、授業スキルを高めていきたい。 ・生徒は、毎日の授業に真面目に取り組んでいるが、基礎・基本の定着にはハードルが高い。家庭学習のあり方も含めて、①各教科ごと年度当初に学習方法を確認する②生徒どうしの「自主学習ノート」の交流を継続して実践する③タブレットの持ち帰りを効果的に進め、学習ログが見える形でのモチベーションを高める④自己肯定感を高めるアドバイスを積極的に仕組む等、自力で課題解決できる力をつけることを目指す。 ・タブレットの使用場面や情報リテラシーの向上について、年度初めに職員・生徒ともに確認して授業に臨みたい。
				21	I C T及び一人一台端末を活用した授業を推進し、どの生徒にもわかる授業の工夫改善に努めている。	17	11	2	0	1	31	4.4	
4	生徒指導に関すること		⑩生徒指導	22	生徒指導目標が設定され、共感的理解に基づく、厳しくも温かい生徒指導体制が整備されている。	12	13	4	0	2	31	4.1	【考察】 ・生徒指導が起きたときにどのように情報を伝え、管理職にどのように伝え指導の方向性を確認するという流れをもう一度確認し、全職員が同一歩調で生徒指導に当たることができるように留意したい。 ・一人一人の生徒の特性を理解して指導に当たったことや、問題を抱えた生徒に対して、担任に任せるのではなく、複数の教員が親身になって指導助言を行ったことが効果的であった。 ・校則に関する検討が進んでいなかったので、生徒指導提要に基づき、生徒と職員のチームで自分事となるよう取り組みたい。 ・生徒指導に当たるとき、否定的な言葉をかけないように心がけている。
				23	望ましい集団活動を通して、自己有用感を育む心の居場所づくりに努めている。	15	13	1	1	1	31	4.3	【来年度に向けて】 ・学校生活の中で生じる問題よりも、SNSに起因する問題、そして家庭環境に起因する問題が多いと感じている。 ・生徒指導部会や不登校対策部会を中心に、少しでも生徒一人一人が安心して生活し、心を癒やすことができる「心の居場所」が作れるよう、職員間の共通理解を行うとともに、スクールカウンセラーや医療機関等への相談を促したり、「かがやき教室」の利用含めて環境を変えたりしながら、一人でも相談できる人を増やせるような体制を目指していく。同時に有効な指導を行うために、組織での役割を分担することも検討していく。 ・休み時間や清掃活動の様子など、授業中では見られない生徒同士の様子をよく観察し、人間関係をつかむことが必要である。また、学校外でのSNSを通した生徒間の問題も見逃さないように、生活ノートや面談等のあらゆる情報収集ができるようアンテナを高く広げたい。「SOSの出し方」について学び、自らが困ったときには大人に相談できるようなセーフティネット体制を築いていく。 ・生徒指導関連の事案が生じた場合には、組織として対応することを徹底する。なお、対応すべき事案の際には、迅速に校長に報告するとともに、複数の職員で同席し、事態を共有しながら指導していく。
5	保護者・地域社会との連携に関すること		⑪保護者地域との連携	24	保護者と連携して教育活動を進めるよう、学校ブログや各種たより等で情報発信と充実にも努めている。	20	9	1	0	1	31	4.6	【考察】 ・学校だよりや学級・学年だより、学校ブログなど発信されているものが充実しており、定期的に学校や生徒の様子を保護者に情報提供できた。 ・食農体験のように学校の中だけでなく、地域の方々にも様々な面でご指導をいただく機会を設け、子供たちを地域全体で育てることで、生徒たちの経験や心がより豊かになっていくと思う。 ・小中連携では、本校と甘利小・北西小の校長が「三校会」で情報交換を行ったり、生徒が小学校に出向いて陸上サポートしたり、中学校教員が出前授業（社会・保健体育）を行ったりしている。また、西中学区の6年生を合唱祭に招待することができた。新入生説明会では児童・保護者が参加し、6年生からの質問や相談に中学1年生が紙面で回答する機会を設けることで、4月からの中学校生活の準備とした。
				25	地域の教育資源の活用と工夫に努め、地域と共にある学校を推進している。	15	10	5	0	1	31	4.3	【来年度に向けて】 ・各たよりや学校ブログ等により、日常的に保護者や地域に情報発信をすることで、学校運営や生徒の状況について情報を共有しておくことは、生徒の成長とともに支えるという視点から重要である。今後も有効に活用し、学校の教育活動等に対する理解を促していきたい。 ・大きなイベントでは、その教育効果について潜在的に保護者も生徒も期待を持っている。頑張ったことがむくわれるよう評価すべきと考える。 ・小中連携において、葦崎市教研、峡北教育研究会等で積極的に情報交換を行い、発達段階を踏まえた指導を連携するとともに、小学校6年生が中学校の生活を知る機会として、今後も西鐘祭や合唱祭等の招待など企画し、中学校生活への期待が高まるように工夫していきたい。
				26	接続を意識し、工夫して小中連携を図っている。	11	15	3	0	2	31	4.1	
6	施設・設備に関すること		⑫施設・設備	27	学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	24	7	0	0	0	31	4.8	【考察】 ・学校も築15年が経過し、水回りを中心に修繕が必要な部分が多くなってきているが、市へ要望を上げることで順次改善されてきている。今年度は、FCUの問題についても対応していただき、普通教室にはエアコンが整備されたことで、熱中症の心配なく教育活動ができた。
				28	教育活動に必要な設備や教科備品、部活動備品などが、整備・充実されている。	19	11	0	0	1	31	4.6	【来年度に向けて】 ・ICTの通信環境は、GIGA対応になっていないので、早急に対応するよう市に働きかけていきたい。 ・各自に貸与されたiPadや各教室の整備された電子黒板等の備品を大切に扱うことや、施設設備等を自分の家と同じように大切に指導を継続していきたい。 ・安全点検の際に限らず学校内の施設設備の不具合に気づいた場合には、すぐに教頭へ報告し、迅速に関係機関と対応することで破損を最小限にしていきたい。
7	その他		⑬生徒像	29	生徒は、楽しく目標をもって学校生活を送っている。	18	11	1	0	1	31	4.5	【考察】 ・大半の生徒・保護者も「楽しい学校生活を送っている」と回答している。職員の評価も「前向きに活動している生徒が多い」という認識である。 ・目標の持てない生徒もいるので、生徒の居場所を大切にし、一人一人の生徒に寄り添った指導が望まれる。行動や言動に留意し、少しでもマイナスの変化が見られた時には、適切なアドバイスがとれるようアンテナを高く、関係者全員で幅広く対応したい。 【来年度に向けて】 ・生徒一人一人が、学習面・生活面・部活動等さまざまな場面で目標をもち、その達成に向けて取り組めるよう、機をとりながら適切に評価し、自己指導能力を向上させ、「自己有用感」や「やり抜く力」を育みたい。